



にしだわ
たる糖尿病
内科は8月

1日、松山
市朝生田町にオープン。

院長の西田さんは、愛
大病院で循環器内科を専

門としていたが、10年前
に糖尿病内科に転身した。
糖尿病に関してはゼロか

らのスタートだったが、

学ぶにつれて分か

ったのが「糖尿病

の急増に対し、何

ら策が講じられて

いない」ことだった。

街にはファースト
フードやコンビニ、
自動販売機が溢れ、
昔ながらの日本の

食文化は崩壊。子供の頃
から高脂肪の食事が当た
り前になった。「元々遣
伝的に糖尿病になりや
すい日本人にとって、非
常に危険な社会」と西田

さんは警告する。

また、予防を軽んじて

きた医療の現場に対して

も自戒を込めて批判の目

を向ける。「糖尿病患者

にしだわたる糖尿病内科

院長 西田 亘さん



はこの10年で2倍に増加
し、なお加速中。医学に
携わる者は「我々は無力
でした」と頭を下げるべ
き」と厳しい。

糖尿病予備軍の人たち

が発症しないよう未然に

防ぐことを最大の目的と

する同院では、まず予備

軍であるかどうかを知

るために、「糖負荷試験」

を実施する。ブド

ウ糖を飲み、すい

臓に負荷をかけた

状態で血糖値を測

定。その変化から

通常の健康診断で

は判らないグレー

ゾーンを見極めよ

うというもので、

近い将来、糖尿病になる
可能性を高い確率で判定
できるという。

糖尿病のリスクのある

人が発症しないよう予防

するには何より日々の食

事が重要。同院は隣接す

る披露宴会場と連携し、

「体が喜ぶ食事とは何か」

を、健康食を楽しみなが

ら学ぶ「健康講話」を定

期的に行っている。「食

材に恵まれた愛媛が健康

食のモデル地域となり全

国を引っ張っていけれ

ば」と大きな構想を描く。

広島出身だが「すでに

愛媛がふるさと。愛媛に

骨を埋めるつもりです」。

昭和37年生まれ、50歳。